第十一章
ショーのマナー。良いことと悪いこと。

　ショーへの出場は誰にとっても大イベントです。時には熱くなりすぎて、礼儀やフェアプレーの精神がどこかに行ってしまう事もあります。しかし、大切な事は勝つことがすべてではなく、どのような態度で競技にのぞんだかという事です。リングの中、外に関わらず、ライバルたちへの礼儀をなくしてはいけません。また、FDA（米国食品医薬品局）や大会のルールによる薬剤や抗生剤の使用規制に違反しないように、休薬期間も守らなければなりません。
　ショーに出る上で、気をつけなければならないポイントを以下に記します。もし最初の 5 つの質問で“ はい ”が、後の 3 つで“ いいえ ”の答えがあったら、あなたはその行動を見直すべきでしょう。

★ *それはショーのルールや法律に違反していませんか？*
★ *誰かにそれをしているところを見られた時、バツの悪い思いをしませんか？*
★ *それをすると、知らないところで誰かに迷惑をかけることになりませんか？*
★ *それが見つかると、失格になったり品種登録が剥奪されたりしませんか？*
★ *それは思いやりのない、道徳に反した事ではないですか？*
★ *あなたと同じ事をしている人から豚を買いたいと思いますか？*
★ *テレビカメラが回っている前でもその事ができますか？*
★ *あなたがそれをしている事が人に知られてもかまいませんか？*
　※ブリーダーズダイジェスト、2003 年 6-7 月号から引用

　そのショーが大きいか小さいかに関わらず、勝てる確率というのはショーのリングに上がる前にほとんど決まっています。それぞれのクラスからチャンピオンが一人ずつ、そしてブリードチャンピオンが一人、グランドチャンピオンが一人選ばれます。豚の共進会はアイススケートの大会と似ています。どちらの大会も、ジャッジが自分を見てくれる時間はわずか数分です。その間で何か起こったとき、例えば豚がぐずついたり逃げ出したり、喧嘩をはじめたり、スケートでは転んだりします。それがたった一度の事でも、豚やスケーターの順位に影響します。たとえ世界一のスケーターでも転ぶ事もあります。
　ショーで負けてしまっても、機嫌よく行きましょう！そして勝者をたたえましょう！ジャッジの意見というのはそのショーかぎりのものです、他ショーで他のジャッジが見たとき、結果が同じとは限りません。でも、だからといってショーの結果にぐずぐず言っても仕方ありません。
　ジャッジの後ろからヤジを飛ばしてはいけません。いつかそのジャッジがあ

なたの先生になったり、ジャッジの仕方を教えてくれるコーチになったり、ひょっとすると雇い主になることだってあるのです！

真のスポーツマンは勝った後でも上品にふるまいます。勝った時にこそ、負けて悔しかった時の事を思い出してください。

大会の販売会で豚を売りましょう

販売会で豚を高く売るためには計画が必要です。ほとんどの出品者たちは、見に来てくれた人の誰かが買ってくれるだろうとしか考えていません。買いに来た人たちも、多くはチャリティーに参加する感覚ですが、誰の豚が一番良い豚かはちゃんと見ています。あなたが所属する 4-H クラブや FFA の支部の中から、バイヤー（豚を買ってくれる人）を案内する係りを決めなければなりません。大会の役員と仲良くなって、バイヤーに特典をつけてもらえるように頼みましょう。以下にあなたの豚を一番高く売るコツを教えます。

1．大会の 1、2 週間前にバイヤーに連絡し、販売会に来てもらえるよう頼みましょう。
２．バイヤーのために、大会の入場券と駐車券を手配しておきましょう。どちらも大会の運営委員が事前に発行することが多いのですが、そうでない場合は誰かのパスを買うか借りるかしなければなりません。
３．もしそのバイヤーがその大会に初めて足を運ぶのであれば、会場までの案内も必要です。販売会の後の豚の引渡し方法などの情報も入手し、バイヤーに届けましょう。
４．バイヤーのために、会場で一番良い席を準備しましょう。
５．バイヤーのために飲み物を準備しましょう。
６．豚を買ってもらった人は、後で個人的にバイヤーにお礼を言いに行きましょう。
７．大会の 1、2 週間後にお礼の手紙を出しましょう。

次の年に向けて

大会が終わって 2、3 日休みを取ったら、両親や先生と一緒にショーの反省をしましょう。今回の大会でよかったと思うことはきちんと書き留めておいて、次の年にも実践しましょう。つぎに、今回はあまりうまくいかなかったけれども、次回は改善できそうな事を書きましょう。次の年の大会が近づいてきた時には、ほとんどの人が前回の失敗を忘れているものです。

春の始め頃が、次の大会に向けた新しい子豚を探す時期です。豚の生産者たちに相談して手頃な子豚を探しましょう。獣医師に相談して、生産者に確認し

なければならない豚の健康上の問題や基本的なワクチンについて知っておきましょう。その獣医師が豚にあまり詳しくなかったら、他の獣医師やアドバイザー、農業普及員、飼料メーカーの技術スタッフなどから情報をもらいましょう。インターネットも役立ちます。VCPR（獣医師-顧客-患畜関係）に基づく家畜の健康管理を守り、新しい情報は獣医師と相談して取り入れましょう。